り抜くかということです。豊助にとってはじめての経験です。

豊助は手に入るかぎりの本を読み、いろいろな人の話も聞きました。洞門の出口と入口の地形や地質も調べ、地図は何枚も書きました。今までにないくらい、しんちょうに測量をしました。両方から掘っていって途中であわなかったら大変です。洞門の大きさや傾斜――何しろ表面から見えない地面の下のことですから、計算もていねいに何回もしました。

ある日、穴を掘る道具のことで相談をしての帰り道、一之丁の西郷頼母のやしきにさしかかったとき、頼母の家に使われている久作という男が、石が森の出身であることを思い出しました。石が森というのは、昔から藩の金山としてたくさんの金を掘り出していたところなのです。豊助は久作をたずねてみました。

「久作さんは石が森の出身だというが、もしかして金山の仕事をしていたの